

待望の「第2回アドバンスコース研修セミナー」開催！

日時：5月19日（土）～20日（日）

会場：万座温泉「日進館」

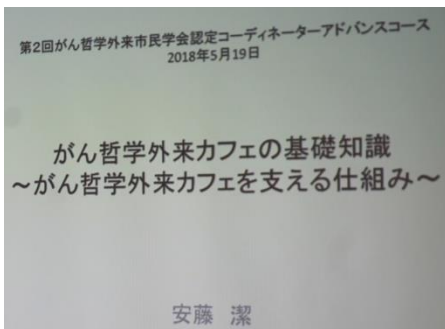
<グループ7>

札幌市 佐藤 裕司

今回は、グループ7略して“G7”という恐れ多い班に参加させていただきました。恐れ多いと言いながらもメンバーの皆さんは養成講座などでこれまでも同じ班になったことがある方が多く、とても居心地の良い中でのグループワークとなりました。

その居心地の良さの中に生まれた建設的意見の数々、それをひとつに収れんさせていく調整力、そして意見だけで終わらせない具体的行動計画、これまでの培った経験のなせる業での各グループの素晴らしいプレゼン…、二日間の日程が終了した時には何とも言えない充実感を感じました。「そうだ！これもカフェの一つの形なんだ！」、そう実感出来る自分がそこにいました。

標高が1,800mの日進館の朝は、雪がうっすらと積もって美しい景色でした。温泉も良かったです。軽井沢駅の黒板消しでたたいたようなスギ花粉のこともすっかり忘れてしまいました。これから1年間、G7の皆さんと立てた計画を「見える形にする」べく行動していきたいと思えます。



<グループ4>

岩手県 照井美樹子

万座温泉での「がん哲学外来市民学会認定コーディネーターアドバンスコース」での学びとグループワークでは、今の自分の思いと目指したい思いをじっくり考えて話すことができました。

4グループの皆さんと話し合ったことは、

①感謝 ②心を共有する仲間になる ③空気のような存在 ④相手の思いを感じる器 ⑤品格でした。

初めてがん哲学外来コーディネーター養成講座を受講した当時は思い返しました。がんの治療（手術等）を経て職場復帰しましたが、まだ不安な気持ちを抱え考え方や気持ちが鋭角的だった頃でした。地元のメディカルカフェで語り合い、時に悩みを聞いていただく中で自分らしく生きるのはどうということかと時に揺れながらも考えるようになってきました。自分を支えてくれる人の存在の大事さと自分に向き合うこと、目標にしていたことを再開したり読書も楽しめるようになりました。

また、グループでの話し合いやお部屋での談笑、食事や帰り車中でのお話しさせていただいたことなど、一瞬にしてこの方になら話せる、話を聴いてほしいと思えたからでした。

できれば、カフェに来た方に自分が今大事に思っていることやこれからやってみたいことなどお話を聞かせていただければと思っています。

みなさんと学び合い大事にしたいことが具体的に見えて心の根っこが元気になりました。第三回のアドバンスコース研修会に期待しています。



<グループ6>

大阪府 原田理恵子

万座温泉の地で、二日間にわたって「認定コーディネーターに求められるものとは？」というテーマでグループごとに語り合いました。

がん哲学外来の認定コーディネーターは全国のがん哲学外来の活動の潤滑油となりながら今抱えている問題解決をするためのミッションを遂行、バージョンアップできる存在になることを目指す…、今までのがん哲学外来の基礎知識のおさらいやこのアドバンスコースの目的を聴きながら新たな気づきが沢山ありました。

グループで話し合った現在のメディカルカフェについての問題点では、テーマとなった「横のつながり」でした。要は同じ県内や近隣のカフェ同士のコミュニケーションが足りない、『万座カフェ』は周囲のカフェと素晴らしくお互いの助け合いの努力をされている、ここから連携強化の群馬支部を作り支部主催のイベントを開催し県内や全国にがん哲学外来の認知度を向上させていく、広報活動には今回縁あったメンバーが全力で資源や強みを生かしたHELP&SUPPORTを行い、より力を発揮させる…、まさしく「バージョンアップ」だと思いました。

私は初の万座温泉でしたが、すっかりこの地のファンになりました。必ずここにまた来るための口実ができたので最高です。ロールモデルとして全国に発信することは、その先の誰かの笑顔に繋がるとワクワクしています。最後に準備会の皆様や6班の皆様、お会いした皆様に感謝！有難うございました。

<グループ3>

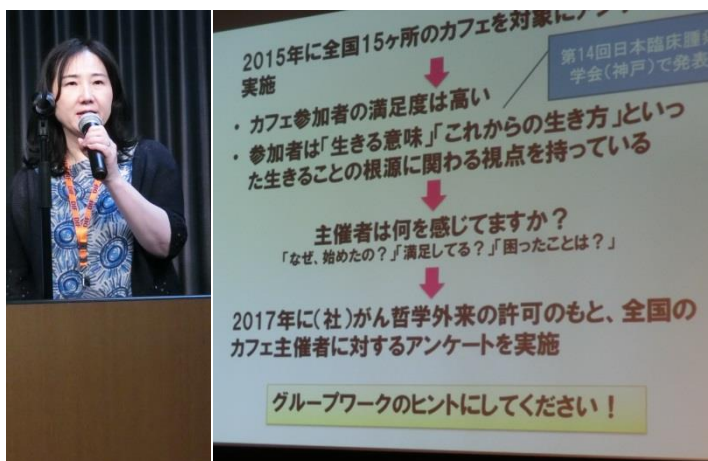
東京都 吉田 泉

5月19日(土)の午後から翌日20日(日)午前中にかけて開催された「がん哲学外来市民学会認定コーディネーター」のアドバンスコース研修会に参加しました。参加者の皆さんは各地でがんカフェを開催したり関わっている方ばかりで、その体験を通して発せられる言葉には重みがあり大いに刺激を受けた有意義な時間でした。

グループワークで上がった目標や課題などを今後一年に亘り班のメンバーと共有しつつゴールを目指していくとのこと、我が班ではカフェを継続していくことの課題を話し合いました。

人を集めるには、①主催者のモチベーションを高める、②自分も楽しむ、③ファシリテーターの力量を上げることが大事。そのために、「先を見通した広報活動、参加者個人を大切にすること、継続的に開催すること、他のカフェとの連携をはかる etc…」など、様々な意見が出ました。

グループ発表(全部で七グループ)を聞きながらそのレベルの高さに圧倒され続けました。そして自分自身の課題を痛感した二日間の研修でした。これから、カフェの開催に向けて動く一年にしたいと気持ちを固めています。



2015年に全国15ヶ所のカフェを対象に
実施

第14回日本臨床腫瘍学会(神戸)で発表

- ・カフェ参加者の満足度は高い
- ・参加者は「生きる意味」「これからの生き方」といった生きることの根源に関わる視点を持っている

主催者は何を感じていますか?
「なぜ、始めたの?」「満足してる?」「困ったことは?」

2017年に(社)がん哲学外来の許可のもと、全国のカフェ主催者に対するアンケートを実施

グループワークのヒントにしてください!

